



INVESTOR RELATIONS デリカレポート

DELICA REPORT

20 第20期 事業報告書
2022年4月1日 ▶ 2023年3月31日



デリカフーズホールディングス株式会社
DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.

東証スタンダード 証券コード 3392

TOP MESSAGE

2023 June

代表取締役社長 大崎 善保



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。

当期も事業報告をすることができましたのは、ひとえに株主の皆様のご理解とご支援の賜物と重ねて御礼を申し上げます。

当社グループの主要顧客である外食産業では、新型コロナウイルス感染症が収まりつつある中、社会活動の正常化が加速し、需要が持ち直す傾向にあります。一方、回復の足取りは業態ごとにばらつきが見られるほか、ウクライナ情勢の長期化による原材料・エネルギー価格の高騰、物流費・人件費の上昇など、厳しい事業環境が続いております。

このような状況の中、当社グループにおきましては2021年5月に発表した中期経営計画「Transformation 2024」での基本方針のひとつ、「事業ポートフォリオの変革」に注力して取引業種の裾野拡大を推進し、新たなお取引様ニーズの積極的な開拓を進めてまいりました。

また、その他の基本方針である「青果物流通インフラの構築」「サスティナビリティ経営の推進」についても、物流拠点新設計画の具体化、フードロスの低減、次世代人材の育成を目的とする人的資本投資の強化など、それぞれの施策に注力しております。さらに、消費者向けミールキットを手がける楽彩(株)とデリカフーズ長崎(株)を中心

に、BtoC事業の拡充も推し進め、着実に成果を上げてまいりました。

これらに加え、仕入・在庫の厳格管理、廃棄ロスの削減、人員配置・物流の最適化などの効率運営を図り、収益体質の強化にも努めています。このほか、お取引様への丁寧な説明を行った上での売価改善により、一部の輸入商材や原材料価格の高騰による諸経費の上昇はあったものの、収益力の改善が顕著に表れております。

このような活動の結果、当連結会計年度における売上高は過去最高となる47,925百万円(前期比20.5%増)となりました。また、利益につきましても、営業利益は635百万円(前期は397百万円の営業損失)、経常利益は769百万円(前期は242百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する当期純利益は702百万円(前期は746百万円の親会社株主に帰属する当期純損失)となり、前年対比で大きく回復しております。全項目で黒字転化を果たしたのみならず、経常利益、当期純利益とも過去最高益を更新しました。

新たに策定した経営理念(MVV:ミッション・ビジョン・バリュー)の下、今後もグループ一丸となり、さらなる企業価値向上に努めてまいります。株主の皆様におかれましては、引き続きのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

業績の概況

取引業種の拡大でコロナ禍を克服し、収益力の改善が顕著に。

当連結会計年度の業績

売上高	47,925百万円 (前期比20.5%増)
営業利益	635百万円
経常利益	769百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	702百万円
1株当たり 当期純利益	47.25円
総資産利益率 (ROA)	2.94%
株主資本利益率 (ROE)	10.07%

取締役のご紹介

取締役



こばやし けんじ
小林 憲司

デリカフーズ株式会社
代表取締役社長 兼任

取締役



なかやま こんの
仲山 紺之

社外取締役



おざき ひろゆき
尾崎 弘之

社外取締役



しばた みすず
柴田 美鈴

取締役会長

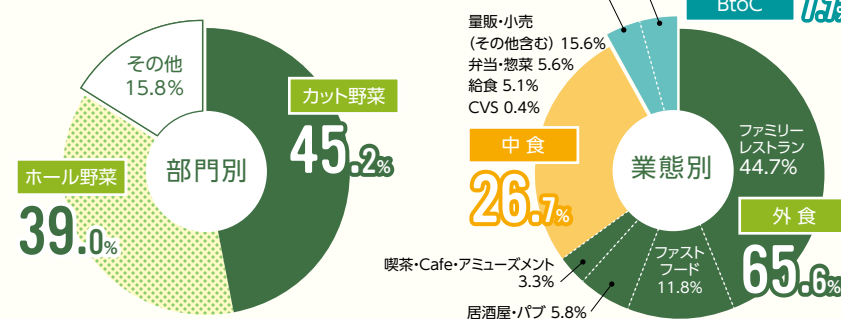


たちもと いさたけ
館本 勲武

売上高と利益は、過去最高を更新。

コロナ禍が収束に向かうなかで外食の需要回復も見られるほか、消費者向けミールキットを中心とするBtoC事業の拡大、量販・小売・給食など取引先の増加により、事業ポートフォリオの変革が大きく進展しました。また、効率経営による収益力改善に努め、これらの取り組みの結果、コロナ禍の厳しい状況を克服し、過去最高となる売上高を計上。経常利益、当期純利益とも過去最高益を更新することができ、業績は大きく改善しました。

販売構成比



加工していない野菜そのものをホール野菜、お客様のご要望に合わせて加工されたものをカット野菜といいます。また、第三の基軸商品として展開している真空加熱野菜もカット野菜に分類されます。

外食・中食と大きく分けて2つの業態があり、全体の6割以上が外食業界に向けた売上となっております。

※ファミリーレストランには、イタリア料理、中華料理、和食等の業態も含まれております。

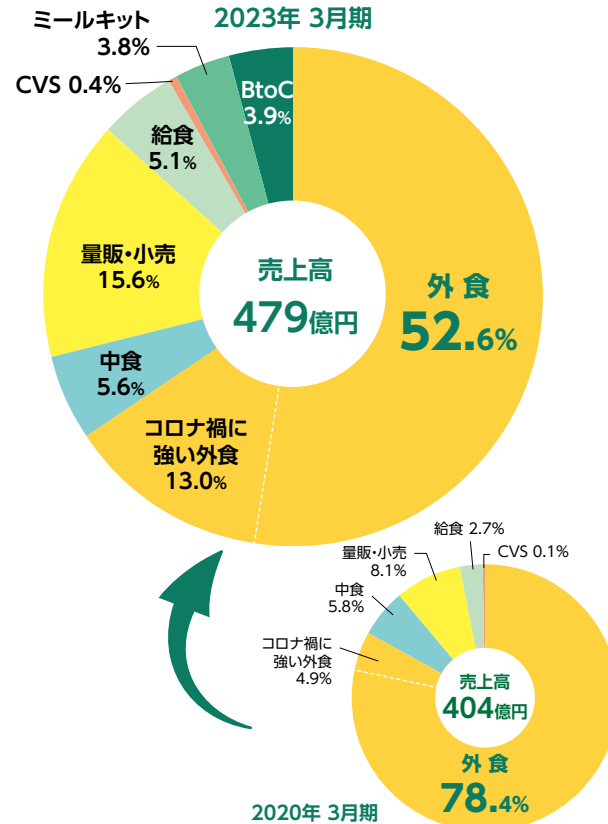
Transformation 2024 最終年度に向けて

REPORT FOR FINAL YEAR

当社は2021年5月、「真に社会に望まれる“農”と“健康”を繋ぐ創造企業」へのトランスフォーメーションを果たすべく、中期経営計画を策定しました。その最終年度を迎えるにあたり、これまでの進捗と今後の方針についてお伝えします。

01 事業ポートフォリオの変革

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で売上が減少したことを受け、今後の持続的な成長のため、コロナ禍に強い業態へのアプローチの強化、販売チャネルの拡大に注力。今までに培った物流網や工場衛生管理体制などの経営資源を生かし、スーパーや量販店、コンビニエンスストア、施設給食、宅配・デリバリーなど、既存外食業態以外への営業活動を推進してきました。さらに、新規事業としてBtoCやDtoCへ参入し、通販、ミールキットの開発など、事業の多角化に取り組んでいます。その結果、事業ポートフォリオの変革は、計画を上回るスピードで進展しており、構成比は当初の目標レベルに近い状況まで到達しました。



ミールキットの躍進



BtoCの売上は順調に推移し、月間3億円超の水準に。特に楽彩ミールキット事業は、NewDaysを中心にジムやキャンプ場など提携先を拡大し、受け取り店舗は140店を突破しました。

コロナ禍に強い外食



外資系ファストフードを中心に、外食業態のなかで特にコロナ禍に強いといわれる、テイクアウト、ドライブスルー、宅配・デリバリー、専門店業態などへの商談・アプローチを強化しました。

02 青果物流通インフラの構築



FSL 保有車両数増加

物流子会社のエフエスロジスティクス(株)では2023年3月現在、110台の車両を保有。2024年3月期には40台の増車を予定しており、輸送機能の拡充を目指します。

センターの増強

中国地区の物流強化に加え、関西・九州地区の中継基地として、全国への幹線便を強化する目的で設立。約2.5億円の投資となる広島センターは、2023年4月に業務を開始しました。



全国をつなぐ独自の青果物流通インフラを確立するため、新たなエリアへの進出に取り組んできました。青果物の長期貯蔵計画に着手するため、現在までに関東地区に埼玉八潮センター、中京地区に中京センター、関西地区に大阪高槻センターを貯蔵流通拠点として新設。これらは、青果物の中継地点として機能しています。さらに2024年3月には、大阪府茨木市に大阪FSセンターの竣工が予定されており、西日本地区における事業拡大の基盤を構築します。また、長距離輸送の強化に向け幹線物流網を構築するほか、フェリーによる海上物流など、産地調達物流を確保。また、同時に物流の内製化を進め、配送ルートや積載の効率化を実現します。

03 サステナビリティ経営の推進



デリカフーズグループでは、持続可能な社会を実現する事業モデルを確立するため、サステナブル宣言の具体的な実行計画として、「SDGsへの貢献」を推進しています。「天の恵みである野菜を100%使い切る」ことを方針として掲げ、持続可能な青果物流通ビジネスを創出することを目指します。たとえば、フードロスの取り組みとして、カット野菜を加工するときの端材を活用し「健康的で美味しいだし」をコンセプトにした「ベジブロス」を、和食チェーン企業と共同開発しました。農家の方が心をこめて育てた野菜をムダなく活用し、より社会に貢献できる企業であり続けたいと考えています。

健康野菜塾の開催

野菜の知識や、食と健康との関わりについて学んでいただくため、健康野菜塾を開催。業務用野菜の現状と今後、食品物流の課題など、サステナブルな社会の実現に向けた情報を発信しています。

契約農家との関わり

青果物の安定的な供給は、事業の持続可能性において最も重要なテーマの一つ。契約農家の方々が、安心して生産に取り組めるよう、情報提供や意見交換などコミュニケーションを大切にしています。

2005年、業界では初めて東証二部へ上場。当時、青果物事業で上場はできないという社内の声もありました。

その後、2014年には東証一部へ指定替えを果たしました。

青果物商社として初の上場

コロナ禍の影響もあり、ドライブスルー八百屋や通販などBtoCに注力。2021年には楽彩(株)を設立し、ミールキットの販売を開始しました。

に B
参 2
入 C
市場

2010年に東京FSセンターが稼働を開始しました。約20億円の投資となる工場の完成は、業界で注目されるとともに、事業拡大の転機となりました。

F S センター を 開設



O N E
D E L I C A

2017年、東京・名古屋・大阪の事業会社3社を、デリカフーズ(株)として統合しました。ノウハウの共有やシステムの一元化により、シナジーを発揮しています。

拠点の全国展開

東京FSセンターがお客様からの高評価を得て、全国各地に事業所やセンターを拡大。拠点の増加に比例して、事業規模は着実に拡大していきました。

2014年、初の物流子会社としてエフエスロジスティクス(株)を設立。これまでアウトソーシングしていた物流業務の内製化により、品質向上を実現しました。

を 物
新 流
設 子
会 社

【 ANNIVERSARY 20 Years ANNIVERSARY DISCUSSION 】 - Vol.01 ふり返し編 -



持株会社設立から20周年を記念して、今号と次号の2号にわたり座談会を実施します。
第1回の今号では、4名のキーパーソンが集まり、20年間で振り返ってみたいと思います。



FSセンターの設立が
事業拡大の転機に

—20周年の感想をお聞かせください。

福本 私が入社したのは持株会社ができる前で、今の東京本社移転前は同じ足立区にある小さな工場でしたから、こんなに大きな会社になるとは思っていませんでした。いろんな出来事が起きて、あっという間の20年でした。

江原 同感です。私は入社16年ほどですが、何年かに一度は大きな課題があり、これらの解決に関わるたびに成長できました。

大崎 持株会社ができ2003年、私は上

場プロジェクトのメンバーに選抜されました。当時はとても上場基準を満たすような会社ではありませんでした。そこから掃除の徹底、残業の撲滅、品質クレームの削減、成長戦略など課題ひとつひとつに取り組んでいきました。

石田 私が新卒で入社したのは2005年の春で、この年の冬に東証二部に上場しました。でも、その頃はまだ日々の業務に追われ、皆必死に仕事をしていた印象でした。

大崎 青果物の商社は相場に左右されやすく、不安定な業態だといわれてきました。そんななか創業者が、「これからは農と健康をつなぐ時代になる」と上場を決

意しました。「上場なんかできっこない」という声もありましたが、結果的に上場を果たし、業界においても大きな第一歩でした。

—東京FSセンターは転機でしたか？

大崎 当時、野菜の流通は常温で、加工工場は18～20℃が主流。そんなとき工場も物流も5℃にしたのは衝撃的だったと思います。しかも、売上200億円の会社が、20億円の投資をするという。一方で、2005年に上場したものの、株価はどんどん下落していました。さらにリーマンショックが起きて時価総額が10億円を割り込み、上場廃止の寸前まで追い込まれたんです。未来のデリカフーズを描き、



デリカフーズホールディングス㈱
代表取締役社長
大崎 善保



デリカフーズ㈱
執行役員 広域営業部部长
江原 聖二



衆彩㈱取締役 兼
デリカフーズ㈱ 営業統括本部 部長
石田 麻衣子



デリカフーズ㈱
品質管理本部統括室長
福本 理英

新たなステージへと挑戦したのが東京FSセンターでした。

江原 工場が新しくなって、社員の皆さんは本当に喜んでいました。ただ、稼働した直後は大変で、製造現場では24時間以上の遅れが発生しました。夜9時に、ようやく100枚ほどの配送指示書を片付けて安心していると、さらに80枚以上の指示書を渡され、倒れ込みそうになりました。

福本 社長ほか役員が総出で製造のピックアップをすとか。かつてない規模の立ち上げで皆混乱しましたが、一緒に乗り越えたのは良い思い出ですね。

大崎 この後、各地に拠点を開設するのですが、これは東京FSセンターがお客様に「全国に広げてほしい」と評価されたから。積極的な成長路線にかじを切るきっかけが、東京FSセンターだったわけです。

—2014年、物流子会社の新設は？

江原 もともと十数社の物流会社に委託し、日々配送を行っていました。当時は各社のドライバーさんが箱を開けて検品し、足りないものは自分で補充していたんで

す。その後、品質向上のために「物流改革」を掲げて、検品は現場が責任を持って、ドライバーさんには運ぶことに専念してもらうように。さらなる改善を目指して設立したのがエフエスロジスティクス㈱でした。

大崎 今後、費用の10%を占める物流の品質が、サービス面で大きな課題になると考えたのです。そのなかで物流の2024年問題、人手不足や待遇の改善など、社会課題に直面しました。これらの事情により、自社で物流会社を持つことを決意。車両の購入、ドライバーの育成、システムの導入など苦労はありましたが、自社と協力会社の物流のデータを一元管理できるようになったのは、品質向上に大きく寄与しました。

✂️ **ONE DELICAを旗印に
組織の一体感を追求**

—ONE DELICAについてうかがえますか。

大崎 もともと、東京・名古屋・大阪の事業会社は独立採算で、協力し合う関係ではあ

りませんでした。お客様のクレームを減らして生産性を高めるには、事業会社の統合による業務の標準化が欠かせません。これがONE DELICAの背景です。

福本 若手社員は統合を望んでいて、仲間が増えて交流が深まりました。たとえば品質管理を担う社員は、小さな事業所だと一人きりでしたが、悩みがあれば相談し合える環境ができました。ルールの統一を図れたことも大きかったです。

石田 営業でも課題がありました。私が担当するお客様は、全国展開している大手外食チェーンが多く、関東以外は別の担当者です。以前は、東京で苦情が発生して対策を講じても、名古屋や大阪で同じことが起きるなど、情報共有ができていませんでした。ONE DELICAの後は情報が一元化され、良いことも悪いことも即座に横展開できます。

江原 舘本会長の考える、志の高さを競わせながら会社を成長させるステージから、和をもってさらに上のステージを目指す会社になりました。各社の業績優先

ではなく、全社最適を優先できるようになったと思います。

—コロナの影響はいかがでしたか？

石田 一時は売上80%減という“どん底”の状況でした。営業部は過去に名刺交換したお客様に片っ端から電話をかけ、工場を見学してもらうなど、コツコツと新規開拓に取り組みました。その甲斐あって、コロナ禍が一段落したとき、一気に状況が好転して売上増につながりました。

大崎 外食がきびしいなか、BtoCへ本格参入したことも大きな決断でした。顧客ポートフォリオを変えようと、ドライブスルー八百屋からミールキットの販売と、ほぼゼロから新しい事業に挑戦しました。

福本 コロナ禍でも、小規模な工場見学は積極的に受け入れました。「ここまで品質管理を徹底している会社があるんですね」と言われたときは感動しました。

石田 福本さんとは席が隣同士なので

が、ミールキットに貼るラベルの研究のため、引き出しの中はいろんな商品のパッケージでいっぱいです！

福本 新事業のための一般消費者向けパッケージのデザインなんて、初めてですから。参考にするため、各社のサンプルを集め、見て勉強していました。

大崎 ピンチを経験したことで、新しいことに挑戦する土壌ができ、それぞれの能力が高まったと思います。社内のチームワークも以前にも増して良くなりました。

—最後に今後の目標についてひと言ずつお願いします。

江原 私はSDGs担当役員として、サステナブルな商品の開発に努めたいと思っています。お金をかけて処分しているものを商品やサービスに変えることで、会社全体の利益率を高め、労働環境の改善や顧客サービスの向上に役立てたいです。

石田 外食産業は少しずつコロナ前に戻っ

てきつつあります。一方、BtoCに参入したものの、まだまだ事業として十分な規模に達していません。もう1つの柱になるよう、挑戦を続けたいですね。

福本 会社が大きくなるとともに、BtoCに参入した以上、ますます食品安全が重要になります。会社の屋台骨をゆるがすような事故を起こさないよう、衛生管理・品質管理を徹底したいと思います。

大崎 持株会社となり20年が経過し、さまざまな出来事を経て、2023年3月期はデリカフーズグループで過去最高の売上を計上することができました。次に私が取り組むべき仕事は、後継者を育てること。このたび新たに経営理念を策定※し、次代の会社づくりに着手しました。優れた人材を育成し、多様な働き方ができる会社へと成長させていきます。

—本日はありがとうございました。

※下記経営理念を策定

未来へ向けて、経営理念を新たに策定いたしました。

ミッション

**青果物の物流を通じて日本の農業の発展と
人々の健康増進に貢献する。それが私たちのミッションです**

ビジョン

**未来の子供たちが安全でおいしい野菜をいつでも食べられる。
持続可能なインフラを構築する。それが私たちのビジョンです**

バリュー

「野菜にやさしく」
私たちは天の恵みである野菜に感謝し、
野菜を大切に扱い、野菜が持つ価値と可能性を追求します

「人にやさしく」
私たちは個の尊厳を尊重し、互いに協力し合い、何事にも素直に前向きに挑戦します

「社会にやさしく」
私たちは一人ひとりが社会の一員として、社会の問題を謙虚に受け止め、
持続可能で豊かな社会の実現に貢献します



楽彩 ECサイトリニューアル！ - Rakusai Renewal! -



オープン1周年を機に、“RAKUSAI”としてリニューアル

ミールキットの販売を開始して、早や1年。オープン1周年となる2023年6月、新たにECサイトをリニューアルいたします。野菜が美味しい超フレッシュなミールキットのほか、野菜・フルーツ・米・卵など、お客様にとって日常の食卓を彩る商品を豊富に取り揃えていきます。アプリを使ったピックアップショッピングでは、最寄りの店舗で受け取りが可能。オンラインストアを利用すれば、宅配便を使って自宅で受け取ることもできます。

こちらの
QRコードより
ご覧ください！



New topics 01

新しいロゴに 生まれ変わりました

「青果のヘタ」と「スター」がモチーフ。主役でないヘタには青果を支える重要な役割があり、楽彩もそのような役割を担ってきたいという思いを込めました。新鮮な青果や美味しい料理をお届けするとともに、日本の農業文化をサポートしていきたいと考えています。



New topics 02

喜ハシェフ コラボメニュー登場！

「KIHACHI」創業者の熊谷喜ハシェフ監修による、コラボレーション商品をリリース。まさに至高の逸品を、ご自宅で楽しむことができます。今後も、有名シェフや料理研究家とのコラボ企画により、お客様の食卓を美しく彩る提案を続けてまいります。



New topics 03

ミールキットの 定期便サービスを開始

RAKUSAIの商品をリピートして下さるお客様の期待にお応えし、新たに定期便サービスを開始します。2食・3食・4食のセットをご用意しており、お届け周期も選ぶことができるため、お客様のライフスタイルに合わせて無理なくご利用いただけます。



新役員ご紹介

DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.

この度、当社および子会社の役員として新たに3名が就任いたしました。今後もグループ一丸となって、さらなる成長を目指してまいります。

古賀 雄一

デリカフーズ株式会社 取締役



入社当時はまだ未上場の小規模な会社でしたが、会社はまさに成長拡大期に入ったところでした。上場準備や新工場の計画と、目まぐるしく進化するなか、営業、仕入など、経営の基礎を学ばせていただきました。今後はこれまでの経験を活かし、デリカフーズの発展と次世代への継承に尽力いたします。

Profile

2002年、外食業界より転職し、東京デリカフーズ㈱に入社。仕入部・営業部で部長を経験後、2011年には取締役役に就任する。大阪事業所統括部長を経て、奈良事業所長・愛知事業所長（現任）に就任し、現職に至る。

石田 麻衣子

楽彩株式会社 取締役



このような大役を仰せつかり、日頃から支えていただいている方々のおかげと感謝申しあげます。コロナ禍により、大幅な売上減を経験するなか、新たにBtoC事業に挑戦し基盤をつくり上げてまいりました。今後も楽彩事業の確立と、野菜の消費拡大、業界のさらなる発展に向け、誠心誠意、努力してまいります。

Profile

2005年に東京デリカフーズ㈱に新卒で入社後は、営業一筋で活動。2017年にはデリカフーズ㈱営業管理本部長に就任。2020年にBtoC事業部の営業部長に就任後、現職に至る。

市野 真理子

デリカフーズホールディングス株式会社 取締役



「食の安心・安全」とともに、さらなる事業の成長に貢献します

デザイナーフーズ㈱設立時からコンサルティング業を中心に、講演やセミナーに従事してきました。その後、グループのRD部門である野菜の研究開発に加え、2020年からは品質管理管掌として、カット野菜だけでなく加熱野菜、冷凍野菜、カップサラダ、カットフルーツ、ミールキット、たれ類などにも関わり、これまで以上に重責を感じています。「食の安心・安全」は重要な経営課題のひとつ。全国で活動する品質管理者、製造トレーナー、出荷トレーナーとともに、食品安全文化の醸成に貢献してまいります。

Profile

1999年にデザイナーフーズ㈱入社後、2014年に取締役に就任。2016年には㈱メディカル青果物研究所の代表取締役社長、2020年にデザイナーフーズ㈱代表取締役社長（現任）に。2022年、デリカフーズホールディングス㈱の執行役員を経て現職となる。

連結貸借対照表(要旨)

	単位：千円	
	第19期 前連結会計年度 (2022年3月31日)	第20期 当連結会計年度 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産①		
現金及び預金	4,536,684	5,500,838
売掛金	4,351,806	5,184,204
商品及び製品	212,017	262,790
仕掛品	7,749	15,446
原材料及び貯蔵品	135,271	179,867
その他	325,559	344,266
貸倒引当金	△2,626	△2,049
流動資産合計	9,566,461	11,485,365
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,965,085	6,114,488
土地	3,914,760	3,914,760
その他（純額）	2,300,544	2,043,666
有形固定資産合計	12,180,391	12,072,915
無形固定資産		
その他	101,065	75,199
無形固定資産合計	101,065	75,199
投資その他の資産		
投資有価証券	500,138	581,655
繰延税金資産	23,928	56,789
その他	577,228	596,697
貸倒引当金	△3,375	△1,667
投資その他の資産合計	1,097,919	1,233,475
固定資産合計	13,379,376	13,381,590
資産合計	22,945,838	24,866,956

	単位：千円	
	第19期 前連結会計年度 (2022年3月31日)	第20期 当連結会計年度 (2023年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,269,137	2,601,435
短期借入金	2,330,000	2,200,000
1年内返済予定の長期借入金	1,408,336	1,591,384
未払法人税等	30,227	210,519
未払金	1,596,820	1,924,652
その他	334,107	391,660
流動負債合計	7,968,628	8,919,652
固定負債		
長期借入金	7,724,304	7,412,920
その他	1,016,034	818,692
固定負債合計	8,740,338	8,231,612
負債合計	16,708,967	17,151,264
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,377,113	1,772,363
資本剰余金	2,171,446	2,569,535
利益剰余金	2,595,085	3,223,768
自己株式	△24,808	△22,648
株主資本合計	6,118,837	7,543,018
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	122,255	170,251
退職給付に係る調整累計額	△4,221	2,420
その他の包括利益累計額合計	118,033	172,672
純資産合計②	6,236,870	7,715,691
負債純資産合計	22,945,838	24,866,956

	第19期	第20期
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失(△)(円)	△50.57	47.25
1株当たり純資産(円)	422.46	474.15
自己資本(千円)	6,236,870	7,715,691
自己資本比率(%)	27.2	31.0

※当社は、2019年9月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益及び、1株当たり純資産を算定しております。

① 流動資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べ20.1%増加し、11,485百万円となりました。これは、主として、現金及び預金が964百万円、売掛金が832百万円増加したことなどによります。

連結損益計算書(要旨)

	単位：千円	
	第19期 前連結会計年度 (自 2021年4月 1日 至 2022年3月31日)	第20期 当連結会計年度 (自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日)
売上高	39,788,128	47,925,283
売上原価	30,746,225	36,220,303
売上総利益	9,041,903	11,704,980
販売費及び一般管理費	9,439,028	11,069,064
営業利益又は営業損失(△)	△397,125	635,915
営業外収益	217,079	185,952
営業外費用	62,670	52,473
経常利益又は経常損失(△)	△242,716	769,394
特別利益	169,895	134,568
特別損失	405,246	165,331
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)	△478,067	738,631
法人税等合計	268,475	36,131
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△746,543	702,499

連結株主資本等変動計算書 当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

	株主資本					その他の包括利益累計額			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	退職給付に 係る調整累計額	その他の包括 利益累計額合計	
当期首残高	1,377,113	2,171,446	2,595,085	△24,808	6,118,837	122,255	△4,221	118,033	6,236,870
当期変動額									
新株の発行	395,250	395,250			790,500				790,500
剰余金の配当			△73,816		△73,816				△73,816
親会社株主に帰属する 当期純利益			702,499		702,499				702,499
自己株式の処分		2,839		2,159	4,998				4,998
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						47,996	6,642	54,639	54,639
当期変動額合計	395,250	398,089	628,682	2,159	1,424,181	47,996	6,642	54,639	1,478,820
当期末残高	1,772,363	2,569,535	3,223,768	△22,648	7,543,018	170,251	2,420	172,672	7,715,691

② 純資産合計

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ23.7%増加し、7,715百万円となりました。これは、主として、利益剰余金が628百万円、資本剰余金が398百万円、資本金が395百万円増加したことなどによります。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

	単位：千円	
	第19期 前連結会計年度 (自 2021年4月 1日 至 2022年3月31日)	第20期 当連結会計年度 (自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	857,087	1,695,875
投資活動によるキャッシュ・フロー③	△1,102,349	△976,585
財務活動によるキャッシュ・フロー	140,471	289,863
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△104,791	1,009,153
現金及び現金同等物の期首残高	4,314,192	4,209,401
現金及び現金同等物の期末残高	4,209,401	5,218,554

③ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、976百万円の支出(前期は1,102百万円の支出)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出954百万円などがあったことによるものです。

DELICA FOODS HOLDINGS

デリカフーズグループは「業務用の八百屋」としてのノウハウを活かし、
安心・安全な野菜を日本全国にお届けします。

デザイナーフーズ

「選食力」＝「栄養力」＝「健康力」と位置づけ、ニーズに応じて科学的根拠のあるメニューの考案から、販売戦略セミナー・講演など、食をトータルでプロデュースします。

メディカル青果物研究所

長年の野菜の研究によるデータをもとに、食品全般の受託分析を行い、食ビジネスにおける野菜の新しい魅力を発掘し、情報を発信しています。

デリカフーズ

全国から調達した野菜を加工、鮮度を保って国内約30,000店舗にお届け。高いカット技術・パッケージ技術を持つ加工工場は、食品安全にも細心の注意を払っています。

エフェスロジスティクス

グループのコールドチェーンを実現するため、全国に広がるチルド配送網を活かし、毎日新鮮な野菜をお届けします。

楽彩

「楽しく」「美味しく」「食卓を彩る」をコンセプトにミールキット販売事業を担います。朝に注文すると当日の夜に食べられる野菜たっぷりのミールキットで、日々の食事を彩ります。

DELICA NEWS&TOPICS

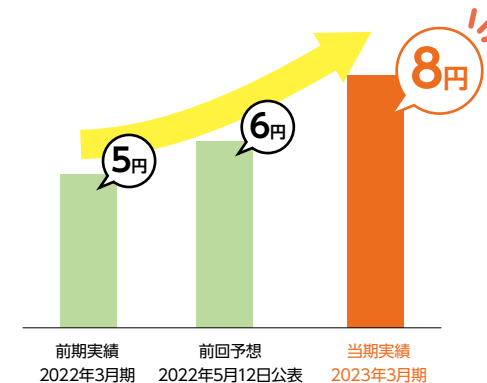
デリカフーズグループの旬な情報をお届けします

NEWS

配当予想の修正(増配)に関するお知らせ

期末配当を、1株当たり6円の予定から 2円増配して8円に変更

2023年1月11日開催の取締役会において、当期の年間配当金の予想について修正(増配)することを決議しました。当社は、株主様への利益還元策として、配当による成果の配分を重視すること、また、原則として期末配当をもって剰余金の配当を行うことを、基本方針としています。下期に入り業績は順調に推移し、通期連結業績の目標を達成いたしました。加えて、現場オペレーションの効率化と売価改善に注力した結果、収益力が改善しています。以上をふまえ、2023年3月期の期末配当につきましては、1株当たり6円を予定していましたが、前回の配当予想から2円増配し、1株当たり8円といたします。



NEWS

エア・ウォーター(株)および
(株)ベジテックとの業務提携

3社協業で、青果物流通ビジネスの拡大と 青果流通加工プラットフォーム構築を推進

2019年より当社と業務提携しているエア・ウォーターのアグリ事業は、北海道産野菜の調達力や冷凍技術、高圧ガス輸送で培った低温輸送による物流ネットワークを強みとしています。また、ベジテックは粗業である仲卸事業ほか、カット野菜・フルーツ加工やパッケージ加工に強みを持つ、青果物の専門商社です。当社は2023年2月20日の臨時取締役会において、エア・ウォーターを割当予定先とする第三者割当による新株式の発行、およびベジテックとの業務提携を決議しました。これにより、業界最大規模のアグリ連合体となり、調達・加工・物流・販売のバリューチェーンを強化。食料安全保障や食料自給率の向上、物流の2024年問題といった社会課題の解決にも貢献していきます。



会社概要

2023年3月31日現在

商号	デリカフーズホールディングス株式会社
英文社名	DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.
設立	平成 15 年 4 月 1 日
創業	昭和 54 年 10 月 6 日
所在地	〒121-0073 東京都足立区六町四丁目 12 番 12 号
資本金	1,772,363 千円
従業員数（連結）	667 名（他、平均臨時雇用者数 2,133 名）

役員

代表取締役社長	大崎 善保	社外取締役	尾崎 弘之
取締役	小林 憲司	社外取締役	柴田 美鈴
取締役	仲山 紺之	常勤監査役	田井中 俊行
取締役会長	館本 勲武	社外監査役	森田 雅也
		社外監査役	三島 宏太

会計監査人 仰星監査法人

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町 1-1 TEL.0120-232-711（通話料無料） 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 株式会社東京証券取引所（証券コード 3392） 電子公告により行う
上場証券取引所 公告の方法	公告掲載 URL https://www.delica.co.jp/ （ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。）

【ご注意】

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機構（証券会社等）で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式状況

2023年3月31日現在

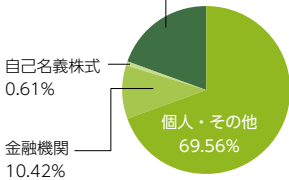
発行済株式総数 16,372,000 株
株主総数 11,424 名

大株主

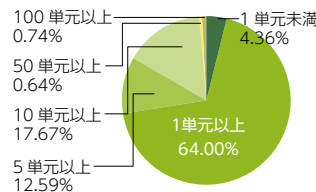
館本 篤志	2,038,900 株
エア・ウォーター(株)	1,719,400 株
館本 勲武	1,189,700 株
(株)日本カストディ銀行 (信託口)	935,300 株
日本マスタートラスト 信託銀行(株)(信託口)	475,600 株
大崎 善保	385,900 株
SMBC日興証券(株)	326,700 株
野村 五郎	189,800 株
丹羽 真清	185,500 株
デリカフーズグループ 従業員持株会	182,100 株

【株主分布状況】

金融商品取引業者	3.92%
その他国内法人	13.04%
外国法人等	2.45%



【所有株式数別分布状況】



 **デリカフーズホールディングス株式会社**
DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.
〒121-0073 東京都足立区六町四丁目12番12号



IR最新情報は
ホームページを
ご覧ください。

デリカフーズ



<https://www.delica.co.jp/>

【お問い合わせ】 TEL 03(3858)1037 FAX 03(5851)1056



本事業報告書は、地球環境への負担を低減させるために、
FSC®認証紙と、UVエコインキを使用しています。



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。